

# (1) 多様性への理解と規範意識、自己有用感の向上

## ② 障害や外国籍、LGBTQの多様性への理解

心理的安全性をについての取組

### 【成果と課題】

教員アンケート「多様性の正しい理解のための授業や取組、研修ができた」 83%

- ◎LGBTQ出前授業(3年と6年)/各学年学級での取組
- ◎国際理解教育(1年、2年)
- ◎通級指導の啓発授業(8割の学級で実施)
- ◎特別支援学級への理解を進める啓発授業(交流学級を対象)

### 【来年度に向けて】

- 通級指導については、担当教員の時間割がタイトであるが、全学年を対象に、通級指導の啓発授業を計画的に取り組む
- LGBTQや発達障害などの様々な特性を持つ児童についての職員研修を行う  
特別支援学級の様子を交流学級児童に知らせる取組を進める

# (1) 多様性への理解と規範意識、自己有用感の向上

## ② 障害や外国籍、LGBTQの多様性への理解

### 心理的安全性をについての取組

#### 児童アンケート

⑭授業中、まちがいを気にせず安心して話せる

67.7→73.3

26.3

⑮授業中、自分の考えをみんなが受け止めてくれると感じる

81.5→84.6

15.4

朝の活動 サークルタイムやペアトーク 総合の時間 自分の好きな物紹介



朝の隣の席・後ろの席の人とのお話  
タイムの取り組みがとても有難い

いじめ防止は親の一番の関心ごと  
理論に沿ってクラスメイトのコミュ  
ニケーションを取らせることは素晴  
らしい (保護者アンケートの記述より)



# (1)多様性への理解と規範意識、自己有用感の向上

## ② 障害や外国籍、LGBTQの多様性への理解

### 心理的安全性をについての取組

#### 【成果と課題】

◎奈良女子大附小、市教委と連携し教員研修や自主研修を重ねた。

◎安心して話ができる、受け止めてくれると感じる児童が増えた。

▲様々な背景があるとはいえ、学校が楽しくない(1割)、受け止めてくれていると感じない(15%)、がんばっていると感じていない(9%)の割合は無視できない。

#### 【来年度に向けて】

→引き続き、心理的安全性を高める取組と研修を継続したい。

→自己肯定感、自己有用感は、学習や活動、行事への主体的な関わり、役割をと  
おして育まれる。より多くの児童が主体的に関わり、役割を担えるよう取り組む。